

あなたが、気になる「質問」はありますか？

質問議員 8 名 質問 10 項目

市政を問う

皆さんの「へんじ」にかかわることを、議員が質問をしました。

その他の町行政	安心・安全	産業・観光・まちの魅力	道路・交通	子育て支援・教育
P10 都市計画マスタープランの新埤線構想は	P9 住民サービスの充実を	P8 避難行動要支援者名簿のあり方と支援は	P7 熊野トンネルの無料化に伴う 県道等の整備計画は	P6 保育料無償化で変わったか くまの・こども夢プラザを 熊野版ネウボラの拠点に
尺田議員	沖田議員	沖田議員	中島議員	光本議員
		水原議員	竹爪議員	山野議員
		諏訪本議員		

※ 紙面の関係により、質疑の一部のみを掲載させていただいています。
また、分かりやすい紙面にするために、趣旨が変わらない程度の編集を行っています。
なお、熊野町議会のホームページ（<http://www.town.kumano.hiroshima.jp>）から、一般質問の全ての内容を視聴することができます。

熊野町議会議員定数条例の一部改正を可決《概要》

次回の一般選挙から 議員定数が 16 人から 14 人へ

- 1 開会
- 2 審議停止の動議提出（※1）
- 3 「審議の停止」を議題とする。賛成者少数により否決
- 4 発議者から条例案の趣旨説明（※2）
- 5 質疑（※答弁は発議者）
- 6 討論
- 7 採決（賛成者起立）起立多数で可決
- 賛成 山野、民法、時光、竹爪、尺田、中島、光本、福田内、水原（9人）
- 反対 中原、山吹、荒瀬、片川、沖田、諏訪本（6人）
- ※採決は議長を除く

発言の内容・説明

※1 「審議の停止」の理由
議会改革については、8年間にわたって特別委員会で協議し、当面は現状のままとする報告書を提出している。今回突然に、最終報告時の委員長が発議された。これが議案になることは、議会制民主主義が成り立っていないことになる。
新しい議員4人への情報提供を含め、全議員で共通認識を持つため、まず特別委員会で協議すべきだ。

※2 「条例案」の趣旨
16人の議員定数を14人とする条例案に、発議者を含め9人の賛成者が署名して議長に提出した。
目的：少子高齢化が進み、人口も2万4000人を切った。IT時代であり、地域選出でなく町選出議員だけでも議会は機能する。また、災害復旧への時間の確保や財源が必要である。

質問① 8年間協議した特別委員会で、人口が2万人を切ったら考えるとしていたものを、なぜ、今提案するのか。
前回削減した時は発議に対して1年間近くかけて調整した。今回は強引過ぎる。数さえそろえばなんでもやるのか。
最終報告は、自分の趣旨とは異なっていたが、委員長として現状維持でとりまとめた。今回は、新人議員や他の議員の声を踏まえて発議した。特別委員会を経なくても発議はできる。議員の役割、信念で行動している。人数でやっていると言われるのは心外だ。
一部の議員とだけ進めるのは議会制民主主義に反する。一度は全員で話し合っべきだ。

質問② 《答弁》 話をしなかった6人の議員には、これまで何度も意見を聞いていた。合意には達しない。議員定数を14人とする根拠や目的が見えない。経済的理由なら工夫すれば良い。
常任委員会が十分機能していない現状での定数削減は、議会の委員会が不要になる。議員も研鑽して、14人に対応できる。常任委員会も工夫すれば良い。経費を削減して事業費に充てる。先の特別委員会の委員長として議会報告、町民へ周知したこと今回の発議は真反対の内容だ。特別委員会をどう考えているのか。人数さえそろえば特別委員会で協議する必要がないのか。なぜ、今回発議されたのか理解できない。

《答弁》 とりまとめ役として委員長を務めた。私個人は削減を考えていた。表裏一体になったとは思っていない。

反対① 最終報告で「人口が2万人を切れば再度熟考する。また、人口維持に努力しながら若い世代を育てていく。」としていたが、その努力をしないまま、なぜ今回の発議なのか。議員軽視だし、特別委員会はなんだったのか。
少子高齢化が進み、社会保障費が増大、災害復旧等々が町財政を圧迫している。町当局も行政改革に取り組んでいるが、議員も身を切り、研鑽することにより議会改革を進めたい。
議会の役割を果たす上で、マイナス要因は避けるべきだ。経済的な理由なら我々の給与を減らせば良い。

賛成①

反対②

（注1）熊野町議会議員定数等調査検討特別委員会最終報告は、「議会だより 107号」へ掲載してあります。
（注2）詳細は、熊野町議会のホームページの議会中継をご覧ください。会議録については作成中です。